



住みやすい地域の環境づくりを

元寒輿会会長 **原 富雄**さん(城山在住)

「年賀城」をご存知でしょうか。松田郵便局に暮れからお正月にかけて年賀状の受付ポストとして設置されるお城です。この「年賀城」を製作したのは原富雄さんです。

原さんは、1950(昭和25)年に中井町で生まれました。実家では農家をしながら鳶職をされていました。ものづくりの技は専門的に学んではいませんが、鳶の仕事を手伝っているうちに身につけていきました。

高校を卒業して、富士写真フイルム株式会社に勤務し、33歳の時に通勤の都合も考えて現在の城山地区に住まいを構えました。勤務は工務部のような部署ではありませんでしたが、機械の取り扱いの資格、消防設備点検の資格、冷凍機械の取り扱いの資格、危険物の取り扱いの資格などを必要とする部署に勤務しました。しかし、後に様々な製作に必要とされる技術は、会社で身につけたわけではなく、その都度独学で学んだそうです。2006年に富士写真フイルム株式会社が富士フイルムホールディングスに移行したときに退職し、松田郵便局に勤務しました。その時の郵便局長に頼まれて作ったのが「年賀城」です。

その後も、その技術を見込まれてものづくりを頼まれたり、自ら申し出たりして、城山地域集会施設の椅子籠の製作や中屋敷児童公園のベンチの

修復や寒田神社本殿から鳥居までの敷石の磨きをはじめ、次々と地域の生活環境の改善に尽力されてきました。

また、寒田神社の神輿担ぎに参加しているうちに、神輿の担ぎ手の会の「寒輿会」を立ち上げました。それまでの寒田神社の神輿渡御は、氏子総代と評議員とで担ぎ手を集めていました。次第にそれでは集まりにくくなったため、安定した担ぎ手の確保と総代および評議員の負担の軽減を考え、寒田神社神輿会を発足し、会長を務めました。原さんは現在も評議員として神社の活動をサポートしています。現在は寒輿会会長を御子息の貴光さんが務め、コロナあけの寒田神社神輿渡御を盛り上げました。



自ら修繕されたベンチに座る原さん

原さんに地域に貢献する活動の原動力を尋ねると、首を傾げながら、「好きだからだろうな」とお答えになっていました。「隣近所の者が顔もわからない、挨拶もできないじゃ、さびしいじゃない」とおっしゃっていました。「無償^{おのづから}」ということばがあります。ほんとうに価値のある宝は数字や形には表せないという意味があるそうです。原さんの話をうかがっていてそんな言葉を思い浮かべました。

(聞き手：吉田 功)

「住みやすい町を目指して」活動されている方や団体で、このコーナーに掲載して下さる方を募集しています。希望される方は下記までご連絡ください。

**令和7年 第1回定例会は
3月4日(火)開会予定
ぜひ、傍聴にお越しください。**
発熱等症状がおありの方は、ご遠慮ください。

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	議会広報広聴常任委員会
北村和士	中津川定雄	秋田谷光彦	平野由里子	武尾哲治	吉田功	

令和7年最初の議会だよりをお届けします。今年「巳年」。巳は脱皮を繰り返して成長することから、「再生」の象徴とされています。議会だよりも、新しい姿へと生まれ変わるべく、今回ちょっとだけリニューアルしました。

議会広報広聴常任委員会では、「より開かれた議会」をめざして、より分かりやすく親しみやすい内容を心がけていきます。皆様に町政について興味を持って頂くきっかけになれば嬉しいです。

今年もどうぞよろしく
お願いいたします！
(北村)

**編集
あとがき**